

幻の
超高得点答案を
探せ3



序章

大転換を迎えた 令和4年度試験

— 請求なしで得点開示がされるようになった —




超高得点答案ハンタープロジェクトチーム
木村 桃子 / 宮原 里歩 / 本告 友規 / 依田 彩那 / 池田 雄紀
中小企業診断士

本誌2020年4月号特集「幻の満点答案を探せ！」を皮切りに、今年で4回目となった本企画。一段と個性豊かな超高得点答案ハンターたちを迎え、装いも新たにリニューアルを実施した。

偶然にも企業の人事担当者が多く集まった新ハンター陣は、仕事で培ってきた人材発掘術を駆使して、全国から超高得点者を探し出し、そのインタビューに成功した。

それでは、新しいハンターたちを紹介しよう。

木村 桃子	
	事例Ⅰ担当。昼はベンチャー企業で人事、夜は占い師として活動中。ストレート合格。自身の活動をYouTubeチャンネル【診断士LABO】で赤裸々発信中。
本告 友規	
	事例Ⅱ担当。テーマパーク運営企業で、マーケティングを担当。2児を育てながら、オールAで2次試験突破。好きなお菓子はトッポ、パイの実。

依田 彩那	
	事例Ⅲ担当。IT企業の人事職として組織開発に従事。受験当時はメーカー勤務だったが、直前まで事例Ⅲの勉強方法が定まらず奮闘の末、ストレート合格。
宮原 里歩	
	事例Ⅳ担当。独立診断士として日夜奮闘、趣味のホテル暮らしを続ける。【診断士LABO】では、フルマラソンを激走する姿も披露。
池田 雄紀	
	今回から本企画リーダーを引き継ぐ。金融機関で人事を務めつつ、平行キャリアの開拓を目指し、若手複業人材集団「BRMz」を立ち上げる。

イラスト：峯松 孝佳

では、各事例の超高得点者たちを紹介する前に、まず令和4年度試験について振り返っておきたい。

1 40歳代以上の合格者数が増加

令和4年度の2次試験の受験者数は8,745人、合格者は1,625人と過去最高を記録した令和3年度と、ほぼ同水準となった。受験者数ベースの2次試験合格率も18.7%と、令和以降続いている横ばい傾向を維持した（申込者数ベースでは18.0%を割る水準にある）。1次試験合格者5人が2次試験で1人未満に絞られてしまう、厳しい戦いが近年は続いているわけだ。

合格者数を年代別でみると、令和2・3年度において占有率を高めていた20・30歳代の合格者数がともに減少する一方、40歳代以上の合格者数が増加している。令和4年度においては、ビジネス経験の多寡や文章の編集能力が合否に影響した可能性もあるだろう。

図表 年齢別の合格者

年齢	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
～19歳	0	1	2	1
20～29歳	137	218	283	249
30～39歳	406	501	687	618
40～49歳	354	296	416	459
50～59歳	161	143	193	246
60～69歳	28	13	19	49
70歳～	2	2	0	3
全体	1,088	1,174	1,600	1,625

出所：一般社団法人中小企業診断協会「中小企業診断士試験申込者数・合格率等の推移」より筆者作成

2 アフターコロナを見据えて

新型コロナウイルスの感染症が経営に与えた影響は、試験にどう織り込まれているのか。

コロナ初年度の令和2年度試験においては、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とその影響は考慮する必要はない」とされていた。

その後、令和3年度試験で事例Ⅱ・Ⅳにおいてコロナ禍の影響について言及されるようになり、

令和4年度試験に至っては事例Ⅰ～Ⅲにおいて言及がなされ、設問における重要な要素となった。

事例企業が、コロナ禍によってどのような経営環境の変化に見舞われ、アフターコロナを見据えた経営方針において何に留意すべきか、情報整理を求められていることが読み取れた。

3 試験結果の発表を巡る大幅な方針転換

1次試験は学識とその応用力さえ有していれば、職種や経験などのバックボーンを問わず解答できる選択式である。一方、2次試験は、詳細な採点基準や模範解答が開示されない記述式である。事業者を実際に支援する現場でも、絶対的な正解がない世界ゆえかもしれないが、初めて受験を試みる方にとっては最も戸惑うポイントだろう。

試験実施団体である中小企業診断協会が試験後に公表する「出題趣旨」をみると、採点者がどのような着眼点を持っているかは推測できるものの、採点基準まで把握することは困難であった。

そんな謎めいていた診断士試験も、この令和4年度に大胆な方針転換を迎えた。従来は、合否通知に記載されたA～Dまでの判定しか知りえず、得点を知るには開示請求が必要だった。しかし、令和4年度試験からは、全科目を受験するだけで合否結果の通知と得点が開示されるようになったのだ。

一方で、令和4年度試験は、資格学校が実施している答案判定サービスの結果が割れ、実際の開示得点とも差異を生じたことが話題になった。私たちハンターも今回は、事例Ⅰ・Ⅳでは高得点者を複数観測できた一方、事例Ⅱ・Ⅲでは搜索が難航した。受験者の実力が拮抗していたのか、得点が60点ライン上に収斂する傾向が見られた。

このような状況を踏まえると、例年にも増して超高得点者の再現答案の価値が高まったといえる。それでは、ハンターたちによる超高得点者へのインタビューをご覧ください。